ＩＳＳＮ 0285－4767

# 北海道考古学会だより

第　118　号
２０１７．９．25

目　次

**第３回北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞表彰式**……1
**2017年度　北海道考古学会第54回総会報告**……1
**2017年度　研究大会報告「歴史・民族・言語研究と北海道考古学」**……6
**北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の募集について**……7
**月例研究会発表者の募集について**……8
**会誌編集委員の委嘱について**……8
**事務連絡**……8
新入会員のお知らせ……8
会誌「北海道考古学」第54輯の投稿について……8
会費納入についてのお願い……8

## 第３回北海道考学会賞・北海道考古学会奨励賞表彰式

５月13日、北海道大学学術交流会館小講堂にて、第３回北海道考古学会賞ならびに北海道考古学会奨励賞の表彰式が行われました。

この賞の目的は、今日まで会を支えてこられた方々を顕彰し、またこれから会を支えてくださる方を発掘することにあります。澤井副会長を選考委員長とする選考委員会が複数回実施され、自薦他薦の応募から北海道考古学会賞は関根達人氏に、奨励賞は荒山千恵氏に贈呈されました。

授賞理由（要旨）は次の通りです。

**学会賞　関根達人氏**

【受賞理由】関根達人氏は、埼玉県生まれ、東北大学大学院にて博士号を取得されました。現在は、中世・近世の考古資料と文献史料の双方から、北海道・サハリン・千島列島への和人の進出の状況、和人や和産物（日本製品）の蝦夷地進出がアイヌ文化の形成と変容に与えた影響、蝦夷地の日本への「内国化」がどのように進行したかなどについて、実証的な研究を進められています。

その成果として、2012年『松前の墓石から見た近世日本』（編）（北海道出版企画センター）、単著として2014年『中近世の蝦夷地と北方交易―アイヌ文化と内国化―』（吉川弘文館）、2016年『モノから見たアイヌ文化史』（吉川弘文館）を上梓されています。

関根氏はアイヌ史や日本史の枠を超えた蝦夷地の歴史（「蝦夷地史」）を提唱するとともに、その実現に向け、アイヌ考古学と中世・近世考古学を融合する研究を行っています。関根氏が取り組む「蝦夷地史」は北方史上の成果にとどまらず、考古学による歴史研究として高く評価され、北海道の考古学研究にも大きな刺激を与えています。

**奨励賞　荒山千恵氏**

【受賞理由】荒山千恵氏は、北海道札幌市生まれ、札幌国際大学を2002年に卒業された後、北海道大学大学院文学研究科に進学し、2008年には博士論文『人類史における「音」の文化の考古学的研究』によって北海道大学より博士（文学）の学位を授与されました。

博士論文は2014年に『音の考古学―楽器の源流を探る』（北海道大学出版会）として刊行されました。2012年には石狩市に入庁され、現在いしかり砂丘の風資料館学芸員として活躍されています。

近年は地元の遺跡から出土した木製品に関する研究も深め論文執筆・学会報告をされる一方、博物館活動では企画展やワークショップを開催し、市民と共に学ぶ・考える・活動する、開かれた考古学の実践を続けており高く評価されます。今後のさらなる活躍を期待します。

## 2017年度　北海道考古学会第54回総会報告

５月13日11時30分より、北海道大学学術交流会館小講堂にて本年度の定期総会が開催されました。会員数347名に対し、本人出席52名、委任状出席94名、合計146名で、総会成立要件である、会員数の５分の

１以上の出席を得たため、総会は成立しました。議長には第５地区の赤石慎三会員を選出し、下記の議案について審議されました。この結果、下記の原案通り承認されましたのでご報告いたします。

**１号議案　2016年度会務報告**

**（1）事業報告**

**ア　第53回定期総会・研究大会**

期　　日：2016年４月30日（土）
場　　所：登別市民会館　中ホール
総　　会：2015年度会務報告、2016年度会務計画案
研究大会：テーマ「北海道における近現代考古学の今後」
参 加 者：120名

**イ　運営委員会**

| 回数 | 開催日 | 主たる議題 |
|---|---|---|
| 第１回 | ４月18日 | 研究大会・総会など |
| 第２回 | ６月18日 | 運営委員業務担当など |
| 第３回 | ７月11日 | 遺跡見学会・遺跡報告会など |
| 第４回 | ９月26日 | 遺跡報告会・研究大会・だよりなど |
| 第５回 | 10月27日 | 遺跡報告会・研究大会など |
| 第６回 | 11月21日 | 研究大会・学会賞など |
| 第７回 | １月30日 | 研究大会・学会賞・だよりなど |
| 第８回 | ２月18日 | 学会賞・研究大会・総会準備など |
| 第９回 | ３月18日 | 学会賞・研究大会・総会準備など |

**ウ　月例研究会**

第１回：６月18日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①村本周三（北海道教育委員会）「トビニタイ文化期の石器組成について」
②高瀬克範（北海道大学大学院文学研究科）「石錐の使用方法を解明する－千歳市キウス４・美々４遺跡の事例分析－」
第２回：７月９日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①大島直行（北海道考古学会）「松木武彦著『美の考古学』を読む（２）」
第３回：９月17日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①種市幸生 「キテの源流について」
第４回：10月15日　※各種考古学関連行事と日程重複のため中止
第５回：11月19日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①瀬川拓郎（旭川市博物館）「サハリンアイヌのミイラ習俗」
②木村英明 「縄文時代後期～続縄文時代の「追葬（時差埋葬）」、「殯習俗」あるやなしや？」
第６回：１月21日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）
①松田宏介 「戦前先史文化研究における地元郷土史家の役割－河野常吉、山内清男そして千里淳－」
第７回：２月18～19日（札幌学院大学　B101教室）第18回北アジア調査研究報告会と共催
２月18日
【講　演】
①Gary Crawford（トロント大学）「The Shangshan Culture and It’s Place in the Early Neolithic」
②劉振東（中国社会科学院考古学研究所）「漢代墓葬制度」
【研究発表】
③加藤真二 「中国北部の旧石器時代の装身具について」
④佐藤宏之 「現生人類アジア拡散研究の現状：IUP・細石刃技術・礫器剝片　石器群」
⑤高倉純・鈴木建治 「北海道ニセコ町西富遺跡における調査」
⑥笹田朋孝・L．イシツェレン・Ch．アマルトゥヴシン 「匈奴の製鉄炉－2016年度の二件の発掘調査成果を中心に－」
⑦正司哲朗・臼杵勲・木山克彦・笹田朋孝・Ch.Amartuvshin· G.Eregzen·L.Ishitseren 「モンゴル国における18世紀の寺院跡ズーン・フレーのデジタルアーカイブ」
２月19日
【研究発表】

①夏木大吾・山田哲・中村雄紀・廣松晃一・吉留平・太田圭・増子義彬・佐藤宏之・熊木俊朗「北海道北見市吉井沢遺跡第10次発掘調査」
②熊木俊朗・夏木大吾・中村雄紀　2016年度北海道北見市大島２遺跡発掘調査報告
③中村大介，正司哲朗，ロチン・イシセレン，Eregzen Gelegdorj 「モンゴル国ホスティン・ボラク遺跡の青銅器時代墓群の分布調査」
④荒友里子 「南ウラルとカザフスタンにおける青銅器時代銅生産遺跡の検討」
⑤福田正宏・M.Gablirchuk・國木田大・田尻義了・A.Shipovalov· M.Gorshkov・福永将大・夏木大吾・熊木俊朗 「アムール流域における考古学的調査報告（2016年度）」
⑥大塚宜明・飯田茂雄・金成太郎・長井雅史・矢原史希・櫻井宏樹・竹田隼・舛舘辰哉・平井友理・山田貴博・石村史 「置戸黒耀石原産地の分布調査報告」
⑦高瀬克範・手塚薫・O. Shubina·I. Samarin·B. Fitzhugh·M. Etnier·A. Shepova·I. Markov「北千島占守島における考古学的調査概報」
⑧臼杵勲・佐川正敏・松下憲一 「匈奴の建造物・住居について」

第８回：３月18日（北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟W517教室）

【卒論・修論報告会】

①岡田原（北海道大学４年）「涌元式土器の研究－館野遺跡出土資料の分析を通して－」

**エ　遺跡見学会**

期　　日：2016年８月28日（日）
場　　所：千歳市・恵庭市・北広島市・札幌市
テ ー マ：地表面からわかる遺跡と考古学
参 加 者：24名

**オ　遺跡調査報告会**

期　　日：2016年12月10日（土）
場　　所：北海道大学学術交流会館　小講堂
内　　容：道内遺跡の発掘調査の紹介・質疑
参 加 者：102名

**カ　連絡紙『北海道考古学会だより』の発行**

115号：2016年７月28日発行
116号：2016年11月７日発行
117号：2017年３月10日発行

**キ　学会ホームページ**

2017年３月まで（12ヶ月間）更新回数：26回

**ク　会誌編集委員会の活動**

会誌『北海道考古学』第53輯の発行（2017年３月発行　400部）

**ケ　特別委員会の活動**

**(2) 2016年度収支決算報告**

**収　入**

| 項　目 | 費　目 | 予算額（A） | 決算額（B） | 増 ▲減 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 会　費 | 会　費 | 1,600,000 | 1,875,000 | 275,000 | 2017年度会費…5,000円×217件<br>滞納会費…5,000円×137件<br>2018年度以降会費…5,000円×19件 |
| 事業収入 | 研究大会収入 | 100,000 | 70,000 | ▲ 30,000 | 研究大会資料集販売<br>70部×1,000円 |
| | 遺跡見学会収入 | 200,000 | 88,000 | ▲ 112,000 | 参加費4000円×22名 |
| | 遺跡調査報告会収入 | 100,000 | 92,000 | ▲ 8,000 | 遺跡調査報告会資料集販売<br>92部×1,000円 |
| | 会誌等販売　収入 | 84,000 | 150,220 | 66,220 | 会誌・資料集販売 |
| | 小　計 | 484,000 | 400,220 | ▲ 83,780 | |
| 広告料収入 | | 0 | 0 | 0 | |
| 雑　入 | | 83 | 0 | ▲ 83 | 利息 |
| 繰越金 | | 1,005,917 | 1,005,917 | 0 | |
| 基金繰入金 | 特別収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 特会収入 | 特別会計収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 合　計 | | 3,090,000 | 3,281,137 | 191,137 | |

**支　出**

| 項　　目 | 費　　目 | 予算額(A) | 決算額(B) | 残(▲超過)額 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業支出 | 研究大会費 | 450,000 | 354,521 | 95,479 | 要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等 |
| | 遺跡見学会費 | 150,000 | 103,276 | 46,724 | 貸し切りバス等／振込み手数料 |
| | 研究会費 | 60,000 | 14,064 | 45,936 | 案内発送、研究会共催費、発表者交通費 |
| | 遺跡調査報告会費 | 390,000 | 454,303 | ▲ 64,303 | 資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等 |
| | 会誌印刷費 | 950,000 | 946,236 | 3,764 | 第53輯400部／振込み手数料 |
| | だより印刷費 | 200,000 | 142,128 | 57,872 | 115号・116号・117号／振込み手数料 |
| | ホームページ費 | 50,000 | 33,618 | 16,382 | ホームページ更新費、プロバイダー契約料、更新・維持管理費 |
| | 小　　計 | 2,250,000 | 2,048,146 | 201,854 | |
| 事務支出 | 報償費（総会費） | 50,000 | 50,000 | 0 | 学会奨励賞 |
| | 委員会費 | 150,000 | 77,860 | 72,140 | 運営委員会・編集委員会出席用交通費 |
| | 消耗品費 | 40,000 | 35,952 | 4,048 | 文房具代・コピー代等 |
| | 通信費 | 200,000 | 187,657 | 12,343 | 会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む |
| | 賃　　金 | 100,000 | 50,000 | 50,000 | 会誌・だより等の発送・その他事務処理(1hあたり1,000円×50h) |
| | 小　　計 | 540,000 | 401,469 | 138,531 | |
| 特別支出 | | 20,000 | 0 | 20,000 | 会費返金分 |
| 基金積立金 | | 60,000 | 60,000 | 0 | |
| 予備費 | | 220,000 | 0 | 220,000 | |
| 合　　計 | | 3,090,000 | 2,509,615 | 580,385 | |

**2016年度決算**

| 項　　目 | 費　　目 | 予算額(A) | 決算額(B) | 差引額(B−A) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| | 収入総計 | 3,090,000 | 3,281,137 | 191,137 | |
| | 支出総計 | 3,090,000 | 2,509,615 | ▲ 580,385 | |
| 決算額差引 | 収入総計（B）ー支出総計（B） | | | 771,522 | |

**2016年度北海道考古学基金会計**

| 項　　目 | 費　　目 | 支出額 | 基金積立額 | 基金総額 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 基　　金 | 名取氏寄付金 | | 420,000 | 420,000 | |
| | 石川氏寄付金 | | 320,000 | 740,000 | |
| | 佐藤氏斉藤氏寄付金 | | 100,000 | 840,000 | |
| | 北構保男氏寄付金 | | 20,000 | 860,000 | 平成17年５月29日10,000円送金<br>平成18年３月22日10,000円入金 |
| | 宮下正司氏寄付金 | | 10,000 | 870,000 | 平成20年３月31日10,000円入金 |
| | 臨時積立金 | | 200,000 | 1,070,000 | |
| | 50周年記念研究大会積立金 | | 250,000 | 1,320,000 | 2012年度積立 |
| | 保存対策費積立金 | | 100,000 | 1,420,000 | 2012年度積立(過年度支出分補填) |
| | 保存対策費積立金 | | 100,000 | 1,520,000 | 2013年度積立(過年度支出分補填) |
| | 60周年記念研究大会積立金 | | 120,000 | 1,640,000 | |
| 合　　計 | | | | 1,640,000 | |
| 過年度支出 | 南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金 | 77,000 | | 1,563,000 | 2003年度支出 |
| | 鷲の木５遺跡保存対策費 | 160,000 | | 1,403,000 | 2003年度支出 |
| | 鷲の木５遺跡保存対策費 | 60,000 | | 1,343,000 | |
| | 40周年記念研究大会費 | 240,000 | | 1,103,000 | 2003年度支出 |
| | 50周年記念研究大会費 | 250,000 | | 853,000 | 2013年度支出 |
| 合　　計 | | 787,000 | | | |
| 基　　金　　残　　高 | | | | 853,000 | |

**(3) 2016年度監査報告**

北海道考古学会の2016年度会計の監査を実施した結果、適正に処理されていることを確認したので報告いたします。

2017年４月29日　監査委員　工藤　義衛　㊞
2017年５月４日　監査委員　園部　真幸　㊞

**２号議案　2017年度会務計画**

**(1) 事業計画案**

**ア　基本方針**

①北海道考古学の発展のため、会誌の充実、大会・月例研究会・遺跡報告会・遺跡見学会などの積極的な開催を図る。

②考古学研究を取り巻く環境が日々変化していく中で、諸課題に取り組むための「特別委員会」

を設置するなど、研究環境の変化に機動的に対処しうる体制をとる。
③だより・ホームページなどを通じて会の活動や研究成果を情報提供する。
④会費納入の呼びかけと適正な予算執行により、財務基盤の安定化を図る。

**イ　2017年度事業計画**

**①研究大会**

日　　時：2017年５月13日（土）　10～17時
場　　所：北海道大学　学術交流会館　小講堂
テ ー マ：「歴史・民族・言語研究と北海道考古学」
事例報告：大坂拓、田村将人、奥田統己、谷本晃久
討　　論：司会　高瀬克範

**②遺跡見学会**

休　　止

**③遺跡報告会**

日　　時：2017年12月９日（土）
場　　所：北海道大学学術交流会館　小講堂（予定）

**④会誌「北海道考古学」第54輯の発行**

発　　行：年１回
時　　期：2018年３月　400部発行

**⑤連絡誌「北海道考古学会だより」の発行**

発　　行：年３回（第118号、第119号、第120号）
時　　期：2017年７月、11月、2017年２月

**⑥ホームページの管理運営**

**(2) 2017年度予算案**

**収　入**

| 項　目 | 費　目 | 2017年度予算額(A) | 2016年度決算額(B) | 増 ▲減 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 会　費 | 会　費 | 1,600,000 | 1,875,000 | ▲ 275,000 | 5,000円×320件 |
| 事業収入 | 研究大会収入 | 100,000 | 70,000 | 30,000 | 研究大会資料集販売　100部×1,000円 |
| | 遺跡見学会収入 | 0 | 88,000 | ▲ 88,000 | 事業休止のため予算なし |
| | 遺跡調査報告会収入 | 100,000 | 92,000 | 8,000 | 遺跡調査報告会資料集販売　100部×1,000円 |
| | 会誌等販売　収入 | 78,000 | 150,220 | ▲ 72,220 | 会誌・資料集販売 |
| | 小　計 | 278,000 | 400,220 | ▲ 122,220 | |
| 広告料収入 | | 0 | 0 | 0 | |
| 雑　入 | | 478 | 0 | 478 | 利息など |
| 繰越金 | | 771,522 | 1,005,917 | ▲ 234,395 | |
| 基金繰入金 | | 0 | 0 | 0 | |
| 特会収入 | | 0 | 0 | 0 | |
| 合　計 | | 2,650,000 | 3,281,137 | ▲ 631,137 | |

**支　出**

| 項　目 | 費　目 | 2017年度予算額(A) | 2016年度決算額(B) | 増 ▲減 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 事業支出 | 研究大会費 | 450,000 | 354,521 | 95,479 | 要旨印刷・講師費用弁償・会場使用料等 |
| | 遺跡見学会費 | 0 | 103,276 | ▲ 103,276 | 貸し切りバス等／振込み手数料 |
| | 研究会費 | 60,000 | 14,064 | 45,936 | 案内発送、研究会共催費、発表者交通費 |
| | 遺跡調査報告会費 | 450,000 | 454,303 | ▲ 4,303 | 資料集印刷・発表者費用弁償・会場使用料等 |
| | 会誌印刷費 | 650,000 | 946,236 | ▲ 296,236 | 第54輯　400部／振込み手数料 |
| | だより印刷費 | 170,000 | 142,128 | 27,872 | 118号・119号・120号／振込み手数料 |
| | ホームページ費 | 10,000 | 33,618 | ▲ 23,618 | プロバイダー料、維持管理費／振込み手数料 |
| | 小　計 | 1,790,000 | 2,048,146 | ▲ 258,146 | |
| 事務支出 | 報償費（総会費） | 50,000 | 50,000 | 0 | 学会奨励賞 |
| | 委員会費 | 150,000 | 77,860 | 72,140 | 運営委員会・編集委員会出席用交通費 |
| | 消耗品費 | 40,000 | 35,952 | 4,048 | 文房具代・コピー代・賞状・筒 |
| | 通信費 | 200,000 | 187,657 | 12,343 | 会誌・だより発送費・葉書切手代金等含む |
| | 賃　金 | 100,000 | 50,000 | 50,000 | 会誌・だより等の発送・その他事務処理 |
| | 小　計 | 540,000 | 401,469 | 138,531 | |
| 特別支出 | | 20,000 | 0 | 20,000 | |
| 基金積立金 | | 60,000 | 60,000 | 0 | 60周年用積立金 |
| 予備費 | | 240,000 | 0 | 240,000 | |
| 合　計 | | 2,650,000 | 2,509,615 | 140,385 | |

**2017年北海道考古学会基金会計**

| 項　　目 | 費　　目 | 支出額 | 基金積立額 | 基金総額 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| 基　　金 | 名取氏寄付金 | | 420,000 | 420,000 | |
| | 石川氏寄付金 | | 320,000 | 740,000 | |
| | 佐藤氏斉藤氏寄付金 | | 100,000 | 840,000 | |
| | 北構保男氏寄付金 | | 20,000 | 860,000 | 平成17年５月29日10,000円送金<br>平成18年３月22日10,000円入金 |
| | 宮下正司氏寄付金 | | 10,000 | 870,000 | 平成20年３月31日10,000円入金 |
| | 臨時積立金 | | 200,000 | 1,070,000 | |
| | 50周年記念研究大会積立金 | | 250,000 | 1,320,000 | 2012年度積立 |
| | 保存対策費積立金 | | 100,000 | 1,420,000 | 2012年度積立(過年度支出分補填) |
| | 保存対策費積立金 | | 100,000 | 1,520,000 | 2013年度積立(過年度支出分補填) |
| | 60周年記念研究大会積立金 | | 180,000 | 1,700,000 | 2015年度積立開始（年60,000円） |
| 合　　計 | | | | 1,700,000 | |
| 過年度支出 | 南茅部町埋蔵文化財調査団事務所被災支援金 | 77,000 | | 1,623,000 | 2003年度支出 |
| | 鷲の木５遺跡保存対策費 | 160,000 | | 1,463,000 | 2003年度支出 |
| | 鷲の木５遺跡保存対策費 | 60,000 | | 1,403,000 | |
| | 40周年記念研究大会費 | 240,000 | | 1,163,000 | 2003年度支出 |
| | 50周年記念研究大会費 | 250,000 | | 913,000 | 2013年10月支出 |
| 合　　計 | | 787,000 | | | |
| 基　　金　　残　　高 | | | | 913,000 | |

**３号議案　運営委員・地域委員・監査委員の改選について**

北海道考古学会会則第６条および規則２－１第２条・第３条に基づき、運営委員、地域委員および監査委員について会員による推薦と投票の結果、以下のように改選を行います。

**運営委員候補**

臼杵勲（新任）、石川直章（新任）、守屋豊人（新任）、松田宏介（新任）、富永勝也（新任）、長沼正樹（新任）、永谷幸人（再任）、坂梨夏代（再任）、菅野修広（再任）

**地域委員候補**

第３地域　小川康和（再任）、第４地域　大谷茂之（再任）、第５地域　渡邊つづり（新任）、第６地域　乾茂年（新任）、第７地域　平河内毅（新任）、第８地域　猪熊樹人（再任）、第９地域　冨樫那美（再任）、第10地域　笹田朋孝（新任）

**監査委員候補**

角田隆志（新任）、工藤義衛（再任）

## 2017年度　研究大会報告「歴史・民族・言語研究と北海道考古学」

2017年度研究大会は、５月13日(土)に北海道大学学術交流会館小講堂で開催され、参加者は会員58名、一般参加者59名、合計117名であった。

近年北海道では、2020年に北海道白老町にオープンが予定されている「国立民族共生公園」や、その中に開館される「国立アイヌ民族博物館」､大学等が保管するアイヌ民族の御遺骨の返還などをめぐって新聞報道が増加しており、考古学的研究成果による歴史叙述、考古学研究者のアイヌ民族との関わりなどについても関心が高まりを見せている。

このような状況を受けて、本大会は､「歴史・民族・言語研究と北海道考古学」と題し、北海道考古学の成果との関わりについて、歴史、言語など隣接分野を含めた発表を企画した。大坂拓氏には、北海道博物館アイヌ民族文化研究センターで考古学的手法を用いた民具資料の分析を進めてきた経緯を踏まえて、民具研究の現状や考古学研究との接点について発表をお願いした。田村将人氏には、国立アイヌ民族博物館の展示計画における歴史展示、特に考古学的成果を盛り込むこととなる部分について重点的にお話いただいた。続いて、奥田統己氏に口頭伝承や言語学と歴史研究の関わりについて、谷本晃久氏に、長期的なスパンから「アイヌ史」の時代区分について、それぞれお話いただいた。

まず大坂氏からは、アイヌ民族の儀礼用冠に取り付けられたクマ形木製品が縄文文化・続縄文文化の土製品・石製品との類似が指摘され、クマ送り儀礼との関連を示すものとして解釈されてきたことを取り上げ、民具資料ではクマ形木製品の分布が狭い地域に集中していることを指摘されるとともに、特にクマ送り儀礼との深い関連がないと解釈される事例も少なくないことを述べられた。

続いて田村氏からは、国立アイヌ民族博物館の開館に向けて、設立準備室で検討されている内容をご紹介いただいた。基本展示室は、床面積1,250㎡が「私たちの世界」（宗教）、「私たちのくらし」（衣食住）、「私たちのしごと」（生業）、「私たちの交流」（交易）、「私たちのことば」（言語）、「私たちの歴史」の六つの大テーマに分かれ、そのうち最後の「私たちの歴史」において、旧石器時代から現代までの歴史が示される中に考古学的な成果が多用されることになることが説明された。また、考古学的なタームとして用いられてきた「アイヌ文化の成立」という表現を避け、通史的な継続性を分かりやすく示すという方針が示された。

奥田氏からは、最初に口頭伝承を歴史研究の素材としてきた研究を検証し、続いて、物質文化や生業が共通していても言語が異なったり、反対に言語が共通していても物質文化や生業が異なるという事例が数多く知られていることを指摘された上で、考古学的文化を一つの言語を有していたという仮説について、根拠を与えることができないとされた。

谷本氏からは、「アイヌ史」の時代区分を巡って、これまでに示されてきた様々な提案を回顧しつつ、「アイヌ史的中世／近世」などをめぐる深澤百合子による批判などにも幅広く言及がなされたうえで、千島アイヌや樺太アイヌ、北海道アイヌといった集団への修練の過程などを巨視的に考慮したかたちで歴史叙述を統合していく展望が述べられた。

多様な視点からの発表に触れることで、考古学研究が現代の多民族共生社会の中で、どのような叙述を志向していくべきか考えさせられ、また、先史時代を対象とした場合にも、常に現在を活きる「他者」との関わりを相互に意識することの重要性に気づかされた大会となった。

## 北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の募集について

北海道考古学会規則第５号にもとづき、下記の要領で北海道考古学会賞・北海道考古学会奨励賞の候補者を募集します。

１．北海道考古学会賞

趣旨：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）の研究、もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体の功績を称える。

候補者の要件：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）の研究、もしくは北海道考古学会の発展に大きく貢献した会員または団体（所属会員の有無を問わない）。

２．北海道考古学会奨励賞

趣旨：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）の研究に大きく貢献した若手研究者の研究活動を奨励する。

候補者の要件：北海道およびその周辺地域の考古学（関連学問分野をふくむ）において優れた研究を行い、将来の発展に貢献すると期待される満40歳未満（受賞年の４月１日現在）の会員。

３．応募・選考方法（北海道考古学会賞・同奨励賞とも）

(1) 自薦および他薦とする。

(2) 締切　2018年１月30日（必着）。

(3) 所定の応募用紙を学会ホームページからダウンロードし、学会事務局あてに郵送もしくは電子メールで送付する。

【送付先】北海道考古学会事務局

〒059-0014　登別市富士町７丁目33-1　登別市教育委員会　社会教育グループ気付

【電子メールアドレス】hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp

(4) 北海道考古学会賞選考委員会（副会長、運営委員２名、一般会員２名から構成）が、応募書類をもとに各賞の趣旨に沿って業績を総合的に判断して選考する。

４．その他

(1) 北海道考古学会奨励賞受賞者に授与される研究奨励費は５万円とする。

(2) 受賞式出席にともなう交通費は支給しない。

(3) 応募書類は返却しない。

(4) 個人情報は、各賞の選考以外の目的で使用しない。

＊学会賞の規則については「だより」109号およびホームページを参照ください。

## 月例研究会発表者の募集について

会員の皆様で、月例会研究会での発表を希望される方は北海道考古学会事務局（hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp）までご一報ください。

月例研究会が開催可能な日時・会場は以下の通りです。

日　時：10月14日（土）15：00～、11月18日（土）15：00～、１月27日（土）15：00～

会　場：北海道大学人文・社会科学総合教育研究棟（W棟）W102教室

## 会誌編集委員の委嘱について

北海道考古学会会誌編集委員会設置要綱に基づき、以下の委員が委嘱されました。

１号委員：高倉　純、手塚　薫、三浦正人、内山幸子、荒山千恵　　＿＿＿＿編集会長

２号委員：松田宏介、永谷幸人

## 事　務　連　絡

**新入会員のお知らせ**

青木要祐（宮城県）　片山弘樹（森町）　斉藤譲一（稚内市）　櫻井宏樹（江別市）　　＊敬称略

**会誌「北海道考古学」第54輯の投稿について**

『北海道考古学』第54輯（2018年３月刊行）は特集を組まず、一般号を予定しています。皆様からのご投稿をお待ちしております。

原稿の締め切り日は下記のとおりですが、投稿を希望する方は、編集の都合上、10月27日（金）までに会誌編集委員会事務局まで電子メールによる連絡をお願いいたします。

学会ホームページまたは『北海道考古学』第53輯（2017年３月発行）に掲載されている原稿の分量・体裁等を厳守の上、ご投稿ください。

投稿希望連絡先　hokkaido.kokogaku@gmail.com

原稿締め切り日　2016年12月22日（金）（必着）

原稿送付先　　投稿希望をいただいた方に個別にご連絡差し上げます。

**会費納入についてのお願い**

会の運営には、会員の皆様のご協力が不可欠です。会費の年内納入にご協力いただきますようお願いいたします。また、本年度を除く過去３年以上の会費が納入されていない会員には、北海道考古学会誌を送付しておりません。会費納入を確認後、送付いたします。

**郵便局口座番号：02770-6-8358　　加入者名：北海道考古学会**

**年会費：（一般）5,000円　（学生）3,500円**

北海道考古学会だより　　第118号　　2017年９月25日　発行

発行所　北海道考古学会（ホームページ：http://haa.main.jp/cms/）

事務局：〒059-0014　北海道登別市富士町７丁目33-1

登別市教育委員会　社会教育グループ気付　北海道考古学会事務局

TEL　：(0143)88-1129

FAX　：(0143)85-9744

E-mail：hokkaidokoukogakkai@yahoo.co.jp

印　刷　北海道図書企画　　(011)668-1131